

ついに川に放流! ボール型ラズパイ放流カメラ製作

ご購入はこちら



森岡 澄夫(ロケットガチ博士モーリーこと)

連載漫画「僕たちラズパイ団～激流編～」(見ル野 栄司氏)で川流しマシンの製作を始めてから2年半、ついに放流イベントでマシンを川に流す日がやってきました。少年時代に戻ったかのような体験で、やってみてこそその発見がたくさんありました。

放流した川流しマシンたちを写真1に示します。

唐突にやってきたXデー

● そもそも川流しマシンを作り出したきっかけ

ラズパイ団で川流しマシンを作ろうという企画が始まって以来、筆者は見ル野先生が起こすトラブルを楽しく見えています。漫画はフィクションと思われているかもしれませんが、ほとんど実話です。ほとんど、と書いたのは、筆者はモーリー博士ほどドライな性格ではないからです(たぶん)編集注1。

企画当初になぜ川流しを思いついたのかは、明確には覚えていません。野外にラズパイを放って自然観察をしたら面白そうだけど、陸上だと自律移動させるのが大変、川なら放っておいても流れるという理由だった気がします。

しかし水質センサなども積みば河川状況の自動調査や学術研究に利用できるかも、という真面目な考えも一応あります。

それは独りよがりな思いつきではありません。以前筆者はイギリスに住んでいて、水道調査用のセンサ内

蔵IoTボールやハイテク・ロボットなどを見ていました⁽¹⁾。これが頭にあったので「流す」という発想になりました。

● 実はマシン作りより難しい…放流実験場の確保

筆者のマシンは2017年末には技術試験がだいたい終わっていましたが、しかし本当に困っていたのは技術面ではなく、事務手続きでした。流すのに適した場所を探した上で、関係しそうな全ての方面へ放流を説明しに行き、きちんと許可を得なければならぬからです。自分の好き勝手に放流することはできません。

ところが今年になって、見ル野先生からの連絡で突然状況が一変しました。愛知県豊橋市にある豊川用水の開通51周年記念でマシン放流イベントがあり、それに参加させてもらえるとのこと。

参加したIoT樽放流イベント(写真2)

「カワテク東三河」⁽²⁾⁽³⁾

～豊川用水通水51周年記念 川×テクノロジーの祭典～
主催：Code for MIKAWA

後援：ウェブインパクト、豊橋市(申請中らしい)

「え、そんなにあっさり決まるものなの？」とまず驚き、

編集注1：大変やさしいです。